

冬春どりリーフレタスの品種と作型

菊池利行・長根 強

(岩手県園芸試験場南部分場)

Varieties and Type of Cultivation on Leaf Lettuce for Winter and Spring Cropping

Toshiyuki KIKUCHI and Tsuyoshi NAGANE

(Southern Branch, Iwate Horticultural Experiment Station)

1 はじめに

近年パイプハウスの導入が急速に増加しており、野菜の品質向上や作期の拡大に効果をあげているが、更に施設の有効利用のために周年利用体系の確立が急がれており、冬春期における新品目の作型開発が望まれている。ここではその一環として冬春どりリーフレタスについて検討をおこなった結果を報告する。

2 試験方法

(1) 品種比較試験(昭和59年)では、レッドファイヤー、サニー、ニュースター、レッドフラワー、サンレッドの5品種を用い、9月10日、9月30日の2回、ペーパーポットには種した。

(2) 作型試験(昭和57-59年)では、レッドファイヤーを用い、9月1日、9月10日、9月20日、9月30日の4回のは種期とした。

両試験とも約1か月の露地育苗の後、パイプハウス内にうね幅120cm、ベッド幅70cm、株間27cmの2条植えとした。

(昭和57年作型試験はうね幅100cm、ベッド幅70cm、株間27cmの2条植え)。

マルチフィルムは、9227Bを使用し、保温方法はパイプハウス内トンネルとし、夜間は更にシルバービニールを使用した。

温度管理は日中25℃前後で換気した。

施肥量は10a当たり堆肥2t、N12kg、P₂O₅20kg、K₂O12kgとした。

3 試験結果及び考察

(1) 品種

9月10日は種の10a当たり収量ではサニーが1,996kg、レッドファイヤーが1,910kgと高かった。

アントシアンの発現はニュースターが最も濃く、次いでレッドファイヤー、サンレッドが同程度であった。しかしニュースターは赤色が葉の頂部に集中し、葉の側面の発色が不良で問題があった。サニー、レッドフラワーはアントシアンの発現が淡～普通であるとともに中心の葉が内側に巻く現象がみられ品質的に劣った。

表1 収穫時の調査(昭和59年品種試験)

処理	項目	株の 広がり (cm)	全重 (g)	外葉数 (枚)	調整重 (g)	最大葉 (cm)		腐敗株 (%)	収量 (kg/10a)	着色	収穫期間	収穫 最盛期
						たて	よこ					
9月 10日	レッドファイヤー	41.4	343.3	4.3	322.0	24.5	29.9	3.9	1,910	+	12.4 ~ 12.14	12.14
	サニー	38.4	339.1	4.7	326.4	24.6	28.9	0	1,996	+	12.4 ~ 12.21	12.14
	ニュースター	40.7	317.6	3.7	304.8	25.0	28.9	7.1	1,747	++~+++	12.4 ~ 12.21	12.14
	レッドフラワー	37.4	323.7	3.7	303.9	22.6	28.9	7.4	1,737	++~+++	12.4 ~ 12.21	12.14
	サンレッド	41.7	348.9	4.6	328.8	25.3	32.3	14.3	1,740	++	12.4 ~ 12.21	12.14
9月 30日	レッドファイヤー	38.4	363.1	6.2	327.1	21.4	24.5	13.9	1,757	++	2.8 ~ 2.28	2.22
	サニー	34.5	400.0	8.0	347.5	21.0	22.0	17.4	1,772	+	2.22 ~ 3.9	3.2
	ニュースター	34.5	380.4	6.7	321.9	21.4	23.8	4.5	1,897	++	2.22 ~ 3.9	3.2
	レッドフラワー	32.3	388.7	5.9	341.6	21.4	22.3	11.1	1,874	++	3.2 ~ 3.9	3.9
	サンレッド	34.5	358.2	6.4	328.8	20.0	21.7	17.9	1,667	++	2.22 ~ 3.2	3.2

9月30日は種では全般に灰色かび病、菌核病の発生が多く、腐敗株の割合が10%をこえる品種が多かったが、ニュースターでは腐敗株が4.5%と少なかった。

10a当たり収量ではニュースターが1,897kg、レッドフラワーが1,874kgといずれも1,900kgに近く多収であった。

アントシアンの発現はサニーが9月10日は種同様劣って

いたが他の品種はほぼ同程度で差がなかった。

また、サニー、レッドフラワーではこのは種期でも中心の葉が内側に巻く現象がみられた。

収穫期はレッドファイヤーが最も早く2月上旬から収穫を開始し2月下旬が収穫最盛期となったのに対し、他の品種では収穫開始が2月下旬～3月上旬、収穫最盛期が3月

上旬といずれも遅くなった。

(2) 作型

昭和57年度は9月1日～9月20日のは種でいずれも12月中に収穫最盛期をむかえ、継続出荷が可能であると思われ

た。しかし、9月30日は種では収穫期が3月上旬となり、他のは種期と比べて大幅な遅れとなった。これは10月の露地育苗のため初期生育が遅れたことと、その後の生育期間が厳寒期と重なり生育が停滞したためと思われた。

表2 収穫時の調査 (昭和57～59年 作型試験)

処理	項目	株の 広がり (cm)	全 重 (g)	外葉数 (枚)	調整重 (g)	最大葉 (cm)		腐敗株 (%)	収 量 (kg/10a)	収穫期間	収 穫 最盛期
						た て	よ こ				
昭和 57 年	9月1日	44.0	352.8	2.9	310.2	26.3	28.5	0	1,908	11.25～12.24	12.2
	9月10日	47.2	398.3	3.8	366.7	26.2	30.9	3.8	2,170	12.7～12.24	12.9
	9月20日	44.4	381.2	4.4	341.9	25.3	29.5	0	2,104	12.9～1.21	12.27
	9月30日	37.6	296.0	3.6	270.0	22.4	23.3	5.0	1,578	3.4～3.7	3.4
昭和 58 年	9月1日	40.8	307	2.4	299	24.4	30.5	6.7	1,566	12.5～12.27	12.15
	9月10日	39.9	262	3.6	250	23.7	31.1	3.6	1,328	12.19～1.27	12.27
	9月20日	34.2	325	5.9	295	20.7	21.6	7.8	1,515	3.13～3.72	3.13
	9月30日	34.0	359	6.4	323	21.1	22.4	2.5	1,831	3.22～4.4	3.22
昭和 59 年	9月1日	43.5	316.7	2.9	307.1	25.2	33.8	1.7	1,896	11.16～11.29	11.22
	9月10日	41.4	343.3	4.3	322.0	24.5	29.9	3.9	1,910	12.4～12.14	12.14
	9月20日	40.4	303.5	4.7	285.4	24.1	27.0	21.5	1,391	12.25～1.21	1.7
	9月30日	38.4	363.1	6.2	327.1	21.4	24.5	13.9	1,757	2.8～2.22	2.22

試験2年目の昭和58年度はレタスの生育期間の気温が低く、特に12～3月は平均気温が平年より1.5～3.6℃も低い異常低温年であった。このため各は種期とも他の2か年に比べ収穫期が遅れた。

9月1日、9月10日は種では収穫最盛期がそれぞれ12月中旬、12月下旬と年内であったが、9月20日、9月30日は種では生育が大幅に遅れ、収穫最盛期はそれぞれ3月中旬、3月下旬となった。

昭和59年度は9月1日～9月20日のは種期で収穫最盛期がそれぞれ11月下旬、12月中旬、1月上旬となり、昭和57年度同様にはば継続出荷が可能であると思われた。

また、9月30日は種では過去2年と同様生育が遅れ、2月22日が収穫最盛期となった。

3年間をとおして各は種期ごとに収量の変動がみられた

が、これは収穫期の早晩と腐敗株の影響と思われた。

また、9月30日は種では各年度ともアントシアンの発現がやや劣る傾向にあった。これは収穫期の高温条件によるものと思われる。

4 ま と め

リーフレタスの品種と作型について検討した結果、品種では、品質、収穫期、収量からレッドファイヤーが有望と思われた。

作型では、異常低温年を除き9月1日～9月20日のは種で11月下旬から1月上旬の継続出荷が可能であると思われた。なお、収穫期を早めるために育苗方法と保温方法の検討が必要であると思われた。